

日本とロシアの**北方領土問題**は
どのようにして始まったのだろうか？

領土が**“問題”**になるのは幕末から

国と国が、ある土地を巡って「俺の領土だ！」と主張し合うのが領土問題。ってことは、国と国が**“主張しない”**と領土問題は発生しないはず。日本とロシアの出会いは江戸時代。その頃は領土なんてちっとも問題にはならなかった。

1792年**近藤重蔵**が**択捉島**を探検

当時北海道はアイヌ民族の領地として、「蝦夷地」と呼ばれていた。その蝦夷地を探検していた近藤重蔵と最上徳内は択捉島を探検し、**「大日本恵土呂府」**の柱を立てた。

1808年**間宮林蔵**が**樺太**を探検

その後、幕府の隠密としてスパイ行動を仕事としていた間宮林蔵が樺太を探検。**樺太が島であること**、いろんな民族が暮らしていることを調査する。樺太西部の海峡は**間宮海峡**と名付けられる。



それ以降、日本は北方探検に力を入れ、ロシアも船の技術が向上して2つの国がそれぞれ樺太や北方諸島に住み着き始めたんだ。

**そして日本の開国、条約締結。
領土問題は話し合いで解決された**